

# 松川事件研究所活動報告書

所長 初澤 敏生

## ○研究目的

松川事件の背景と実相、大衆的裁判闘争、松川救援運動および出版・報道の論調について、これまでの研究成果を踏まえ、総合的に研究する。

## ○研究メンバー

<研究代表者（研究所長）>

初澤 敏生 人間発達文化学類・教授

<研究分担者（プロジェクト研究員）>

金井 光生 行政政策学類・准教授

熊澤 透 経済経営学類・教授

小山 良太 経済経営学類・教授

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

荒木 貢 あぶくま法律事務所・弁護士

伊部 正之 福島大学名誉教授

今野 順夫 福島大学名誉教授

広田 次男 広田法律事務所・弁護士

安田 純治 安田法律事務所・弁護士

渡邊 純 けやき法律事務所・弁護士

<研究補助者（プロジェクト研究補助員）>

石川 信 松川記念会

菅野 家弘 松川記念会

古屋 恒雄 松川記念会

吉田 吉光 松川記念会

## ○研究活動内容

平成 29 年度は松川記念会と協力し「松川賞」の第 3 回募集、審査、表彰を行った。

松川事件発生から 60 年以上が経過し、事件の風化は急速に進んでいる。「松川賞」の設置は、松川事件に関する様々な研究や評論などを公募することを通して、事件の風化をとどめるとともに、事件研究の新しい展開を追求することを目的としている。本年度は 5 件の応募があり、福島大学を卒業後、秋田県内で高校教員として松川事件を取り上げてきた小池健氏が「語り継ぐ部門」で受賞した。大学での活動が卒業後も受け継がれていることに、教員として襟を正さなければならないとの思いを強くした。また、故本田しのぶ氏がサークル機関誌に連載されていたエッセーが特別賞を受賞した。このエ

ッセーは、運動に参加していた人々が松川事件をどのように見ていたのかを知ることができ、貴重な資料でもある。今後、研究を深めていくことが必要である。授賞式は平成 29 年 9 月 30 日に福島大学附属図書館において行われ、マスコミによって広く広報された。「松川賞」は、来年度以降も継続して実施する予定である。

また、昨年度から開始した活動として、松川事件関連資料の電子データ化があげられる。今年度は東北大学から寄贈された貴重資料である「諏訪メモ」の電子データ化を行った。松川事件の発生から 60 年以上が経過し、各種資料の劣化が進んでいる。特に当時の紙資料は酸性度の高いものが使われていたために劣化が激しく、このままでは近い将来に多くの資料が失われることが予想される。そこで、紙をアルカリ処理して中性化し、劣化を防止する。資料のこれ以上の破損を防ぐため、電子データ化して原資料はできるだけ手を触れないようにして保管する、という方策をとった。これに当たっては大学の支援も受けたが、特に中性化処理は多額の経費がかかるため、一部の資料しかできないのが現状である。しかし、資料の保存のために、今後も引き続き行っていきたい。

「諏訪メモ」については、インターネット上での公開を考えているが、個人名等が多数記述されているため、現在内容を確認中である。公開については大学の倫理規程なども踏まえて検討することとしたい。

松川事件関係資料の発掘と研究も課題である。福島地検に事件関係資料が保存されていることが明らかになったため、平成 30 年度以降、これらの資料の収集と分析に着手する予定である。また、現在も各地から紙あるいは映像の資料の寄贈が続いている。これらの資料に関する研究、次の世界記憶遺産登録を目指しての事件研究も併せて進めていく予定である。

この他にもえん罪事件研究や世界記憶遺産等に関する基礎的な研究も進めていかなければならない。課題が山積である一方で、研究の歩みは遅いのが現状である。少しでも加速していきたい。